

利根川



VOL.16

2002 7月号

利根川水系農業水利協議会
群馬県支部情報紙

編集・発行 利根川水系農業水利協議会群馬県支部
〒371-0837 群馬県前橋市箱田町350
027-251-4105

会員施設紹介コーナー



高崎西部土地改良区（寺尾堰取水口、金ヶ崎取水口）

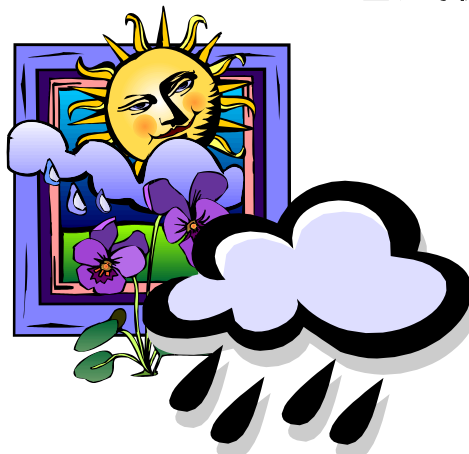
* 寺尾・根小屋地域への農業用水のかんがいは、歴史も古く、慶長6～慶応3年 *
* (1601～1867)、に根小屋用水、金ヶ崎用水の開削が行われました。昭和36年に *
* 高崎西部土地改良区の設立認可がなされ、その後、昭和55年に入り、土地改良事 *
* 業として団体営かんがい排水、ほ場整備事業が実施され、農業用施設の整備が積極 *
* 的に行われてきました。 *
* 土地改良区の基幹施設としての一級河川烏川右岸より取水する寺尾堰取水口、一 *
* 級河川碓氷川右岸より取水する金ヶ崎取水口の二つの取り入れ口は、本地域をかん *
* がいする用水の源として、土地改良区が直接管理を行っている重要な施設となっ *
* ており、地域にとっても欠かせない貴重な財産と言えます。 *



寺尾堰取水口



金ヶ崎取水口



岡崎用水土地改良区（榛名湖水門、沼尾川砂防ダム）



岡崎用水は、榛名湖を水源とする沼尾川から取水し、沼尾川左岸に展開する受益区域をかんがいしています。元和元年、初代代官岡上九左衛門景純公が岡崎の「たかやの地」を沼尾川の揚水地と定め堰の開削を手がけたのが始まりで、この地を「たかや堰」と名付けたのが由来であります。

今現在は、「たかやの堰」も昭和61年に建設された沼尾川砂防ダムとなり、このダムから取水口を設け導水しています。

この歴史的経緯のある用水施設の築造は、古人の偉業を偲び、後世に伝えるべく水源地記念碑が建立され残されています。



榛名湖水門



沼尾川砂防ダム



用語解説コーナー



正常流量とは？

河川維持流量に水利流量（下流の既得水利流量）を加えたものです。

正常流量を算定する場合は、河川の流況（長期間の実測流量）、河川への流入量・河川からの取水量等（検討区管の河川への流入量及び取水量を積み上げし検討する。）、河道状況（現況における平均河床勾配を調査）、自然状況（検討区管の水質、生息魚種等の調査）、社会環境（検討区管内の河川沿岸における観光・景勝地等の調査）などの検討を行い算定します。

水に関するコーナー

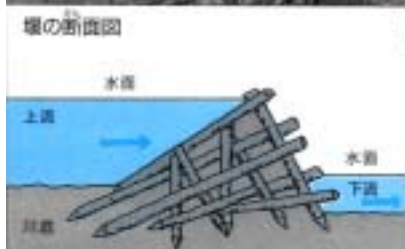


川から水をひく～井堰 Part.2

以前、ご紹介した「井堰」についてもう少し考えてみよう！
「井堰」とは太古より考えられた水を取るためのものであるが今回は簡単な絵を付けて説明します。



- 左： くいを斜めに打ち込んで丸太を固定する方法
- 右： くいを打ち込んで、その間にカヤを編みこんだかんたんな堰
- 下： 左図で説明している構造の全景写真！



水に関するQ & A

Q 以前、情報誌「利根川Vol.7」にのっていた、「井堰」の名前のいわれは？

A 川などの水の流れを「せき」とめるのが、「堰（せき）」というのじゃ。最初に作った「堰」は、くいを「井げた」に組み合わせたようなかんたんな作りだったから、「井堰」っていうんだぞ！



Q 「井堰」はいつから作られたの？



A 福島県の板付井堰からは、木のくいをまっすぐ打ち込んだかんたんな井堰が見つかるよ。ここは、縄文時代の水田の遺跡だから、紀元前3世紀までには、できていたんだね！

**平成14年度「21世紀土地改良区創造運動」を支援する
新規県単独事業の概要**

新規事業創設の基本的考え方

ソフトからハードへのプロセスの重視(ソフト活動のプロセスを経てハードへ)
 地域住民の参画(パブリックインボルブメント)と積極的な情報提供
 農業農村整備事業の広報活動の一環
 環境保全、環境創造への理解を深めるための啓発

新規施策事業名	内 容
用水から学ぶふるさとの歴史事業	土地改良区が管理する農業水利施設の歴史的成立過程や現在の様子をまとめた小学生向け副読本を作成する。 3年間で15地区 H15年度に印刷製本費5地区分300万円 県費100% 事業主体: 県(土地改良区)
上州の水辺ふれあい事業	土地改良区等が管理する農業用水路で魚が生息出来る環境を再現・整備し、子供たちが魚の飼育を通して水辺でふれあえる機会を創出する。 1地区30万円以内で年間10地区300万円 県費100% (道普請型ぐんまクリーン大作戦の工種として追加) 事業主体: 自治会、子供会、任意団体等
21世紀の土地改良を考えるシンポジウムの開催	土地改良事業の地域社会への関わり方、地域住民の参加システム等を新たな視線で考えるためシンポジウムを開催する。 定額100万円 事業主体 県土連・上毛新聞
ぬくもりサイン設置事業	県産木材を利用した、土地改良施設掲示看板を設置する。 (企画部の県産材活用枠予算) 年間400万(20地区)で4年間 事業主体 土地改良区等
地域と共に生きる土地改良区の活動支援	農業水利施設を管理する土地改良区が行う地域住民の意向を反映した施設の維持管理・地域づくり等の活動に対して支援を行う。 土地改良区の紹介誌作成50地区(H14~H15) H14に紹介誌25地区分150万円 H15に25地区150万円 事業主体 紹介誌作成(県) リーフレットの作成(県土地改良事業団体連合会) 県は各事務所に支援委員会を組織し、人的支援を行う。

事業についての詳しいお問い合わせ

群馬県 農政部 土地改良課 及び 各農業総合事務所 農村整備部(農村整備センター)まで